

# SHOW HEY シネマールーム

★★★

## おとなの恋の測り方

2016年・フランス映画  
配給/松竹株式会社・98分

2017 (平成29) 年4月27日鑑賞

松竹試写室

### Data

監督: ローラン・ティラール

原作: コラゾン・ド・レオン

出演: ジャン・デュジャルダン/ヴ

ィルジニー・エフィラ/セド

リック・カーン/セザール・

ドンボワ

### ■ショートコメント■

◆久々にフランス初のロマンティック・コメディを鑑賞。『おとなの恋の測り方』という邦題からも、「オトコの価値は、何で決まる?」という本作のテーマからも、本作がどんなロマ・コメかわからなかったが、主人公の男の身長が136cmという設定を聞いて、なるほど、なるほど・・・。

男の価値は外見じゃない! 中味だ! 実力だ! とはよく聞かすが、実は・・・?

◆ロマ・コメの最初のポイントは男女の出会いだが、さすがフランス発のロマ・コメだけあって、本作導入部で見る、3年前に離婚し、今は独身生活を送っている魅力的な女性弁護士ディアーヌ(ヴィルジニー・エフィラ)の自宅にかかってきた電話で話し込む冒頭のシークエンスは面白い。今どき、スマホと別に自宅に固定電話を置いている人(家庭)は少ないはずだが、本作では、ストーリー構成のため、自宅電話が不可欠だ。

電話をかけてきた男・アレクサンドル(ジャン・デュジャルダン)は、ディアーヌがレストランでスマホを忘れたところをすぐ近くの席で見っていたようだ。それなら、なぜすぐにその場で追いかけてくれないの? その質問に対するアレクサンドルの答えは、ウイットに富んだものであったうえ、その電話では、食事のお誘いまで。普通はそんなお誘いに乗るディアーヌではないが、この時ばかりはアレクサンドルの会話上手のためか、ディアーヌは翌日約束の時間に約束の場所に行くことに・・・。

◆男女の恋に貧富の差や教育(知力)の差など関係なし! さらに、互いの容姿の善し悪しや体重差、身長差も関係なし! 誰でも口ではそう言うが、さてその実は・・・?

本作のプレスシートにある、辛酸なめ子のコラム「アレクサンドルに続け! 素敵なお小柄男子に注目」には、「ステキなお小柄男子たち」として、①爆笑問題・田中さん(154cm)、

②トム・クルーズ（170cm）、③孫正義社長（160cm）、④岡村隆史さん（156cm）の名前が挙げられている。本作のアleksサンドルは、それをはるかに超えた小柄男子で、身長136cmというから、こりゃ小人（いや失礼!）。

◆アレksサンドルを演じたジャン・デュジャルダン は、フランス発の無声映画『アーティスト』（11年）で第69回ゴールデングローブ賞のコメディ／ミュージカル部門の最優秀男優賞と第84回アカデミー賞最優秀主演男優賞を受賞したカッコいい俳優だが、本作で136cmのアleksサンドルを演じるについて、ローラン・ティエラール監督は、さまざまな撮影上のテクニックを駆使したらしい。その成果もあり、最初にレストランのテーブルを挟んでアレksサンドルとディアヌが向い合うシーンや、立ったまま2人が向い合うシーンは、いずれも面白いシーンになっている。3年前に離婚したのに、今なおディアヌに未練を示す元夫ブルーノ（セドリック・カーン）がオフィスを訪れてきたとき、ディアヌの前の大きな椅子に座っているアレksサンドルを見過ぎてしまうシーンも失笑ものだ。

初デート以降に見せる建築家としてのアレksサンドルの仕事ぶりや、ウイットに富んだ会話力を見れば、アレksサンドルの男としての魅力は十分だが、小人みたいな男という外観はやはり男の価値に決定的マイナスを・・・？

◆ディアヌは、そんなことを気にせず、ひたすらアレksサンドルとの恋に猛進！一見そんな雰囲気もあったが、一緒にデートをするたびに周囲からジロジロ好奇心の詰まった目で見られることにディアヌはうんざり。さらに、アレksサンドルをディアヌの両親に紹介したところ、身体が不自由になっている父親は、理解を示したものの、母親の方は娘の再度の結婚相手としては問題外の扱いを……。そんな中、ディアヌが周りの目を気にすることなく、アレksサンドルと付き合っていくのだろうか？と考えはじめたのは仕方ない。

本作は98分と短い、中盤はロマ・コメの定番どおりディアヌのそんな悩みを浮き彫りにしたうえ、遂に2人は別れてしまうことに……。もっとも、これはクライマックスでのハッピーエンドを迎えるための設定であることもロマ・コメの定番。したがって、その展開は安心しながら観ていけばいいのだが、本作ラストでは、導入部で登場したセスナからの空中ダイビングという「離れ業」による恋の復活が見られるので、それに注目！

アレksサンドル演じるジャン・デュジャルダンの奇妙な小人ぶりは、なかなか脳裏から消えないが、それと同じようにディアヌを演じたウィルジニー・エフィラの美しさにゾッコン……。

2017（平成29）年5月1日記